

令和4年8月4日

J A 営農支援課

『斑点米カメムシ類 やや多い～多い』

本年は県病害虫防除所から斑点米カメムシ類の発生量が「多い」と発表されておりますが、7月27日にJ A 営農支援課でもA地区～H地区を各1点ずつすくい取り調査したところ、「やや多い～多い」の頭数が確認されました。捕獲の内訳は「アカヒゲホソミドリカスミカメ」が全体の71.2%、「アカスジカスミカメ」が同28.8%と「アカヒゲホソミドリカスミカメ」が多い状況となっております。また、例年より多いセジロウンカの捕獲も確認しております。

現在、出穂～乳熟期を迎えるに当り警戒が必要となりますので、つぎにより対策及び防除に努めてください。さらに詳しい情報を知りたい方はJ A 営農支援課（45-3033）までお問い合わせください。

また、出穂前より高温日が続いておりますが、白未熟粒やくサビ米は出穂後20日間の平均気温が27℃を超えると発生が多くなるとされており、圃場の乾燥により助長されることから、この期間の天候を注視し高温日が続く場合は、間断灌水等による乾燥対策に努めてください。

斑点米カメムシ類、ウンカ類対策

- ① 圃場内にヒエ、ホタルイが残草している場合は早急に抜き取る。
- ② 出穂10日後頃に1回目の薬剤（エクシード、キラップ等）を散布。
「たつこもち」「ちほみのり」散布適期：8月8日頃
「あきたこまち」散布適期：8月12日頃
「きぬのはだ」「ときめきもち」等晩生品種：8月17日頃が目安
- ③ 上記薬剤散布後、速やかに草刈り（薬効があるうちに圃場内へ追込む）。
- ④ 上記薬剤散布から2週間を目途に2回目の薬剤（エクシード、キラップ等）を散布。

〈 防除薬剤 〉

- ・エクシード…[粉剤DL] 3kg/10a、[フロアブル] 2,000倍で60L/10a
[フロアブル] 16倍で800ml/10a(無人ヘリ)
- ・キラップ…[粉剤DL] 3kg/10a、[フロアブル] 2,000倍で60L/10a
[フロアブル] 16倍で800ml/10a(無人ヘリ)

※ 農薬の使用に当たっては使用法を確認し、環境に配慮した施用量等を心がけてください。

「水稻技術情報」<https://www.ja-ogata.or.jp/farming2/>をホームページで閲覧の際は、これまで必要だったパスワード入力なしで閲覧可能になりました。

※水稻以外の技術情報は、これまで通りパスワードの入力が必要です。